

拝啓 世界のセカイで生きるあなたへ

和佐間 芽弥

和洋国府台女子高等学校

先日、小さい頃よく見ていたディズニー映画「不思議の国のアリス」の DVD を見つけたので久しぶりに見てみました。不思議の国でも自分のセカイを崩さないアリスの精神の強さに驚きつつ、今となってあの妖しい世界の面白さが分かったのは私のセカイの視野が広がったからだと思います。

「せかい」には、人間社会全体を指す「世界」とその人だけの独自の「セカイ」の 2 種類あると時折私は考えます。「世界の中に個人のセカイがある。」そういった感覚です。

世界が個人のセカイに影響を与えないことはまず有り得ません。ここ数年のコロナ禍や不況といった出来事が私達の生活に大きな影響があったように。

生活が変われば、身近な人も変わります。第二次世界大戦がその例にあがるでしょう。身近な人が変わればあなたの環境も一変してしまいます。では、もしあなたにとって悪い環境に変わってしまった時、あなたのセカイは一体どれ程の影響を受けるのでしょうか。

私のセカイは小学校 3 年生の時に一変しました。きっかけは母の死です。くも膜下出血で今すぐにでも母の心臓は止まってもおかしくない、と ICU でお医者様に告げられたその日から一週間後、母は天国に旅立ちました。唯一の親であった母を亡くしてから私は祖母と二人で暮らすこととなり、葬式の時には、もうすでに身体は母の居ない生活に慣れていました。本当に急な出来事でしたので心は中々持ち直せず、いつしか友達と違う家庭環境や自分自身の存在など何もかもに嫌気が差して「もういっそママの元に行けたら、」と希死念慮を抱いたときもありました。

荒んだセカイに再び光が差し込んだのは、高校である先生に出会ってからです。その先生は強く優しく素敵な方で、先生の面影はどこか母を連想させます。ある日、私は先生に自分が感じる恐怖について相談をしてみました。

「今、大切なあの人も母のように明日急に死んでしまうのかもしれないと思うと怖いんです。でも周りの人に心配をかけたくなかったから、誰にも話さずずっと我慢してきましたがもう限界です。どうしたら良いか分かりません。」

先生はこう答えました。

「あなたが小さい時に大人にならざるを得なかった代償は、後にあなたを苦しめるかもしれない。だからその時に、あなたの隣でその悲しみや辛さを一緒に背負い分かち合える様な素敵な人を見つけられたらいいね。」

あの時の先生の優しい声と眼差しを私は一生忘れないでしょう。

本当に嬉しかった。やっと気づけた気がしたんです。私はずっと過去と自分の目先のセカイに囚われて未来のことなんてちっとも考えちゃ居なかった、と。

私のセカイは今、周りのいろんな人の暖かさに導かれゆっくりと、平穏を取り戻しつつあります。年間約 2 万人もの人々が自ら命を絶つこの日本で、これから私達はどんなセカイで生きていくのでしょうか。セカイに絶望し暗闇で生きる時がきっと誰しもあると思うのです。だって人生いつ何があるか分からないですもの。

世界人口七十九億人のこの世界には、七十九億個のセカイと感情で溢れています。あなたのセカイは何色ですか。幸せ、苦しみ、喜び、怒り時に憎しみ。様々な色で彩られていると思います。私はあなたに、そのあなただけのセカイを大切にしたいのです。きっと幸せばかりの人生でなかった人もいますでしょう。でもその痛みはきっとあなたのセカイの糧となり、いずれやって来る幸せへの階段となってくれます。幸せは気まぐれですからすぐにやって来るとは限りません。そんな時は焦らずに幸せの思い出をおかずに好きなご飯でも食べて待ってみましょうよ。

この文章を読んでくれたあなたのセカイが素敵なものとなりますように、この世界のどこかから私はずっと祈っております。

参考文献

警察庁より「令和 4 年の月別の自殺者数について」

<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/jisatsu/R04/202212sokuhouti.pdf>